

ナイチンゲールの日

5月12日は看護の日です。看護の日の由来はナイチンゲールの生誕日とのことで名づけられました。そして今年は何とナイチンゲール生誕から200年目という記念すべき日なのです！（記念すべき日ですが今年は大変です...）

ナイチンゲールと言えば、看護の基礎を築いた方としてとても有名ですよね。中でも「看護覚え書」は看護師とはから実際にどのように看護をしていくか、例えば清潔方法だったり、患者様の対応方法、ご家族との関わりなど細かな事がかかれており、今の看護教育の基本がかかれています。

これが書かれた時代の病院の実態は、不潔の巣窟であり、そこで働く看護師も看護に関する知識などなく行う者たちばかりで、世間からは忌み嫌われていたというので驚きです。

「看護覚え書」の最期のほう(補章)には、看護師に必要な能力とは「他人の感情のただなかに自己を投入する能力」であるとのべられています。言い換えると「相手の気持ちを知る」「人の気持ちが分かる」能力です。確かに看護技術を上手にできるという事も大切ではありますが、まずは患者様の気持ちが分かる、患者様のことを考えるという事が看護師にとっては非常に重要であると思います。当たり前と感ずるかもしれませんが、実際の現場に立つとなかなか難しかったりもします。

働き始めたとしてもふとしたときに「看護覚え書」を見てみると、ハッと気づかされることもあるかもしれません。本をお持ちでいらっしゃる方は是非大切にとっておくとよいかもしれませんね。

生誕200年♪



私の看護

—緩和ケアを経て—

入職した頃の頃に初めて患者様の死に立ち会った事があります。その方は癌の末期であり、緩和目的で入院していました。普段は声かけに対しても反応はなく目の焦点も合いませんでした。しかし色々な人たちの協力もあり、長年同居していた脊髄損傷で座る事も苦痛である兄が来院しました。再開した際には、兄の声かけに対し目を開き兄の方に向かって必死に口を動かし、何かを伝えようとする姿がありました。その後その方は数日でお亡くなりになりました。そこで緩和ケアとして状態の観察や苦痛を取り除く事だけではなく、その人の望むこと、患者様の家族等の心情の理解が必要であると感じました。そして介入できることや行動を起こす事を考え、患者様を支えていく一員として患者様や家族と接していきたいと思えます。

(3階病棟：看護師3年目)

お問い合わせ

岐阜勤労者医療協会

みどい病院

mail: midori-nurse@gifu-min.gr.jp

電話: 090-1621-0243 (専用)

058-241-0681 (代表)

担当 亀田

回復期リハビリテーション病棟の取り組み

みどり病院の回復期リハビリテーション病棟(略して回リハ病棟)にある、レク係というものをご紹介します。

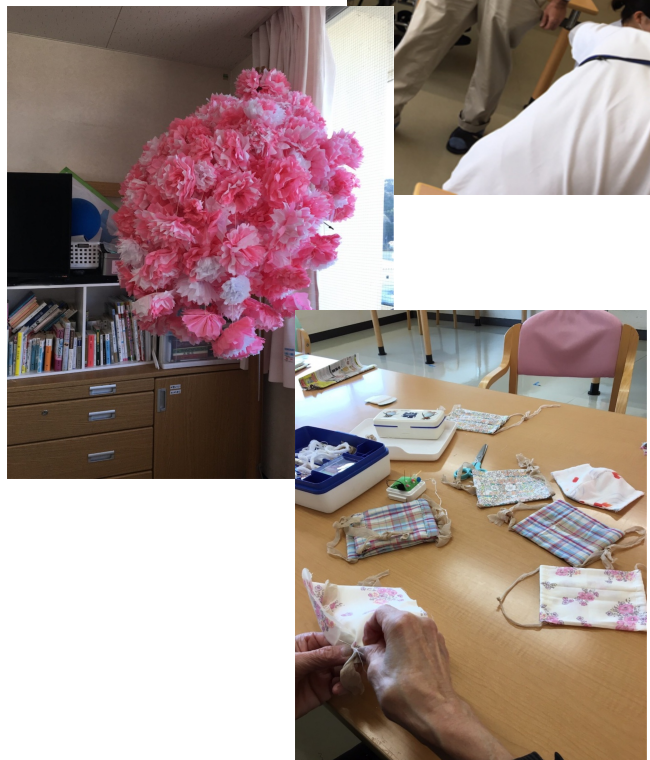
回リハ病棟には看護師、ケアワーカー、リハスタッフで構成されるグループがいくつかあり、その中にレク係というものがあります。

レク係というのはなにかというと、回リハ病棟での入院期間は患者さんによりまちまちですが、長い方だと半年近く入院し、リハビリを行う事になります。そんなリハビリ漬けの毎日の中に、ちょっとした娯楽と潤いをお届けするために、毎月映画鑑賞会や午後の集いというプチイベントを実施、夏にはお祭りを企画したりして、ともすれば季節感も感じられなくなってしまう単調なリハビリ入院生活を楽しみながら過ごしていただくという活動を行う係なのです。

2月には豆まきをしました。当初病棟スタッフが鬼の役をやる予定だったのですが、たまたま、松井院長が病棟を通りかかったので、急遽鬼の役をやらしてもらいました。

そして4月にはお花見…とりたいところですが、新型コロナウイルスが猛威を振るう昨今、なかなか患者さん全員をお外に一緒にお連れする事も難しいので、お花紙で患者さんとせっせこ花を折って枝垂れ桜を作成しました。患者さん達が『こんな細かいの見えんわー』『紙めくれんわー』などおっしゃられながら、一緒に花を折ってくれてました。

最近では一緒にマスクを作ってマスク不足で大変な今を乗り切るために頑張っています。ウイルスはまだまだ収束せず、皆さんも疲れ切っているかとは思いますがこの局面を一緒に乗り切りましょうね...!



ちょびっと豆知識

—無料低額診療制度について—

無料・低額診療事業という制度があります。これは、医療機関で活用できる制度ですが、実は社会福祉法に位置づけられています。経済的な理由により、医療費の支払いが困難である方の医療費の自己負担金や一部負担金の減額や免除を一定期間行う制度です。

ただ医療機関ごとに行政より認可を受けて制度を実施している為、どの病院でも利用できる訳ではありません。岐阜県内では、みどり病院やその関連する事業所、そしてその他の病院1カ所で実施されています。

就労形態の多様化、社会保障制度がますます使いづらくなる中で、医療へのアクセスが困難となっている方が大勢います。みどり病院では毎年「手遅れ事例」といって、お金が無くて病院にかかる事が出来なかったために悪化、もしくは亡くなってしまった方を調査しています。残念ながら、この事例は一定数は発生しています。この「手遅れ事例」にならない為に、この制度を使用したりとお金がないからといって病院にかかれなような流れが変わると良いなと思います。

もし皆様が働き始めてそのような患者様を見かけた場合、是非この制度を思い出してお問い合わせを頂けると嬉しいです。

(みどり病院 医療相談員)

